
ジャンナイ・スコア

恋絃歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャンナイ・スコア

【Nコード】

N7908A

【作者名】

恋絃歌

【あらすじ】

過去の事件で、故郷を出なくてはいけなくなった旅人、ルイリは、旅先である先々でいろんなことに出会う。

聖地辿りて - ? -

光の丘に草を掻き分けて差した風があった。

ツヤに磨かれた葉の表面が痛々しいくらいに光を反射し、目をも阻んだ。

光沢に輝いた丘の向こうに、小さく人影が見える。

太陽は何の邪魔も無しに、熱と紫外線を放出し、季節を運んだ。そして、瞬き。

街には太陽と共に、活気に包まれ、人が行き交う溜まり場のようだった。

何も躊躇うことなんか無い。街に入るとき、そう思った。

怖い街でもない。ただ、見知らぬ人ばかりだったから。

今更悟ったって、もう街には踏み入っていた。もう突っ切るしか無い。

太陽に向かってひたすら人を縫うように歩き、くたびれた。

自分を追っていた影でさえも、人の波に消されていた。

・・・と、突然街の高台から、大きなサイレンの音が鳴った。

耳で肌で、空気が振動するのが分かった気がした。鼓膜が揺れたから。

一心に耳を塞いだが、その効果も、体してないようだった。

と、急に鳴ったサイレンは、急に鳴るのが終わった。

それでも音は、街の向こうからかすかに聞こえる。

人は鳴ったと同時に、まるで、今までずっと鳴っていたサイレンの音を、気づいたばかりのような、そんな顔で一斉に立ち止まった。

動きがみんな、そう、誰一人として、みんな動きが止まった。

一人、街に訪れたばかりの僕は、呆然とするしか他に道はなかった。呆然、だから僕も動きが止まってしまい、街全体が止まった。

そして静けさが保たれた。しかしそのうちに、街の人は何も言わずに、無口で歩み始めた。

ただ流されてしまい、僕もみんなが行く方向に向かった。太陽の真逆に。

そして、また立ち止まった。

僕は勇気を出して、街の人にこれは何なのか聞こうと試みた。

しかし、この異常な雰囲気、そして静かさのために聞くことを断念した。

ただ街の人と同じ、同じ動きをすれば良いんだ。そう思った。

しばらくの沈黙、この異常さはもちろん初めてだ。

一人の人が座って、それに続くように人々はみな、座り始めた。当然、さつき悟ったように、僕も座った。

そして、一人の人が立った。

「ジャジャ様！生贄贄同します！紅に、くれない勇気を下さい！」

「「「「「勇気を下さい！」「」「」「」」」」」

一人が街いっばいに響くような大声で、叫び、そして街の人全員がそれに続いた。

圧巻だ。何だろう？これは。

「紅！宿れ紅の竜巻よ！」

立っていた人が、そう叫んだ。そして、太陽に背を向けて、両手を天高く伸ばした。

青の空が、雲を揺らした。雲が動き出し、そして太陽を隠した。

「光よ！紅の刃、^{くれない}牙の紅！^{べに}」

そのうち、嫌な予感と共に雲からつつすらと、光の刃が差した。稲妻が、立っていた人に落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7908a/>

ジャンナイ・スコア

2010年12月23日02時27分発行